

2019年10月1日(第192号)
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074 高松市桜町1丁目8-9
TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.jp/



カトリック高松教区報

マザーテレサの言葉
キリストとともに分かち合う苦しみは驚くべき贈り物、キリストの愛のしるしです。あなたがたに、そんなに沢山の苦しみに、こんなに沢山の愛を贈ってくださいとは、神様は何とすばらしいお方でしょう。

教区民の集い(10月20日)に向けて

社会とともに歩む教会をめざして
(福音の奉仕者としての教会)
諏訪 榮治郎 司教

この11月に教皇フランシスコが日本を訪問されます。38年ぶりの教皇の訪日となります。
思えば1981年教皇ヨハネパウロ二世の日本への訪問は第二バチカン公会議の精神が日本の教会に浸透することを促すためでした。長い年月の間に教会の姿勢と現代社会との間に大きなずれが生じていたのです。内に閉じこもりがちな教会から、積極的に「社会に開かれた教会」へと方向を促すためのものでした。この教皇に答えるよう開かれたのが1987年の「福音宣教推進全国会議(NICE)」でした。

この時のナイスの画期的な特徴の一つは、「教会はこうあるべき」という従来の姿勢から「社会の現実が、教会に何を問いかけているのか?」「教会はどう答えるのか?」という「社会の現実から出発する教会」という姿勢への転換でした。
このナイスから30年、これを受けて私たちは、教区をあげて3年にわたり「生涯養成委員会」と「教区女性性の会」の協力のもと、「福音マーケット」の実施に向けて取り組んでまいりました。これまでの経過は下の表の通りです。今回の「教区民の集い」は教会が福音の担い手としてこの社会(地域)の中でどのように、ともに歩み、奉仕することができるのか、その具体性もしくは方向性を探るために行います。

各小教区で目標に向け取り組みやすいように、生涯養成委員会は「福音宣教」の目標(具体案・もしくは方向性)を見出し、いただきたく準備をお願いいたします。
*「準備マニュアル」はインターネットのカトリック高松教区ホームページに掲載されています。

当日の具体的なプログラムなどは「生涯養成委員会」で準備を進めてまいります。教会が、「日々の糧」を分かち合い、福音において社会との新しい関係の奉仕者となれますように、主の導きと祝福をお祈りいたします。訪日される教皇様に心を合わせたいことを祈ります。喜びの内にも歩んでまいります。



青年の集いin坂出(2018年)



女性の会での分かち合い風景(2019年)

	福音マーケット 課題・内容	実施場所
2017年 Part 1	・私たちの地域(社会)には生きるにおいてどのような難しさがあるのでしょうか。 ・教会が持っている宝(豊かさ)はどのようなものでしょうか。	各小教区にて実施
2018年 Part 2	・私たち教会がいただいている宝(豊かさ)を確認し、深め分かち合ひましょう。	地区・ブロックにて
2019年 Part 3	・教会が福音の奉仕者として、社会にどのように仕えることができるのかその方向を探りましょう。 ・具体的な次の一歩を歩みだすために何ができるのでしょうか。	10月20日 (司教座聖堂にて)
2020年 Part4	・方向性と実施の歩みを振り返る。 ・発見と気づきを深め合う。	地区・ブロック



八幡浜教会の福音マーケット(ベトナム人の集い)



八幡浜教会の福音マーケット(子供たちの集い)

◇266代教皇 フランシスコ来日(東京・広島・長崎)決定◇

教皇の各国訪問は使徒的訪問または司牧訪問と呼ばれ、その目的は各国の教会と社会を視察し、その国の人々に祝福と励ましを与えることです。今回の訪問の強調点は右下の「来日テーマ」に表されていますが、具体的な意向については来日時に教皇さま自身が発する各スピーチで表明されるでしょう。(教皇訪日準備室の説明文を改変)

日程

○今回の来日テーマ「PROTECT ALL LIFE-すべてのいのちを守るため-」説明

11月23日(土) 東京	羽田空港に到着、歓迎式典 大使館で日本司教団との会合
11月24日(日) 長崎・広島	爆心地公園 西坂公園
14:00	ミサ(長崎県営野球場)
夕方	「平和のための集い」(広島平和記念公園)
11月25日(月) 東京	東日本大震災(地震、津波、原発事故)被災者との会合 諸宗教の若者との集会
16:00	ミサ(東京ドーム)
11月26日(火) 東京	上智大学 羽田空港から離日

教皇フランシスコの来日のテーマは、同教皇の回勅「ラウダート・シ」(2015年5月発表)巻末に収められている「被造物とともにささげるキリスト者の祈り」から取られています。わたしたち一人ひとは、神の似姿としてのいのちを与えられ、すべての人とともに永遠の祖国を目指すように導かれています。そしてこの世界も、神によって「人の住む所として形づくられ」(イザヤ45・18)、保たれています。ですから、「すべてのいのちを守るため」には、人間一人ひとりの尊厳はもちろんのこと、環境も大切にされなければなりません。しかし、「わたしたち皆がともに暮らす家」である地球は、人間の手によって蹂躪されて苦しみ、そのうめく声は、世界中のうち捨てられた人々の嘆きと重なっています。今日の日本にも、いのちと平和に関する諸問題が山積しています。経済、環境、近隣諸国との関係といった問題のほか、大規模な天災や原発事故からの復興も、持続的な課題として存在しています。わたしたち日本の教会は、あらゆるいのちを守り、人間の生の諸問題に真摯に取り組むべく努めています。キリストが示されたいのちの福音を告げ知らせ、キリストによる平和のために祈り働くその決意を、教皇来日のテーマは表しています。

はばたき

昔は子供の数が多くて親の老後の世話や後始末は分担していましたが、今は子供が一人であったり、子供のいない人もいます。そのため、社会現象として終活(自分の準備)が広がっています。町内や家族に頼らずに、自分の後始末は自分でという時代になってきているのです。人は将来必ず起こる事の準備をいつかしなければなりません。近いうちにしなければならぬ人もいます。私もそのうちの一人ですが、たどるべき道は書いてありませんが、エンディングノートは白紙のままです。ノートを持ってはいても書けない人がほとんどです。「死」と向き合うことがいかに難しいかということでしょう。死を前にして私たちは、神の手の中にある明日のことに思い煩わず、いま自分の手の中にある今日の目を精一杯生きていこうという生活態度が大切なのではないでしょうか。イエスにおいて死を考えましょう。イエスなしには死は恐ろしいもの、厭わしいもの、自然の恐怖です。けれどもイエスの中では、死は愛すべきもの、聖なるものであり、全き喜びです。「私の父の家には住むところがたくさんある。さあ来なさい」(ヨハネ14・2)とイエスは言われます。愛憎の人生に別れを告げ、死を通してその向こうにある神の声、永遠のいのちを考えながら生きていく。これが私たちの信仰生活なのではないでしょうか。

助祭叙階式

高松教区の終身助祭叙階式が7月28日カトリック桜町教会(高松市)で行われました。アウグスティヌス小山一さん(73歳)とシモン・ペトロ・R・T・ウィリアムスさん(53歳)です。小山助祭は昨年まで大学医学部で教鞭をとっておられました。またウィリアムス助祭は現役で大学教授として働いておられます。週未奉仕者として「兼任助祭」となり特に外国籍の方々の奉仕を担当いたします。二人に共通していることは、若い時代から教会への愛と奉仕職を望み、教会活動に参加しておられたということです。

現在、高松教区で働く司祭は18名、終身助祭は4名となりました。信徒数は外国籍の方々を含めて約5000名ですが、神学生はドミニコ会の1名といった状況です。

この度の終身助祭叙階に向けて、小山助祭は2年間、日本カトリック神学院の教授から個別指導による神学、霊性、司牧の養成を受け、ウィリアムス助祭は、アメリカの教皇立ヨゼフ神学院の終身助祭コースのインターネットによる講座と交わりにおいて養成を受けてきました。

聖職者として終身助祭を加えることにより、この助祭たちが重ねてきた豊かな社会経験と信仰体験、家庭生活を通して与えられた霊性の豊かさや奉仕の心などを持つ教会の奉仕者として、薄くなりつつある聖職者の厚みを増していくことを望んでおります。

終身助祭としての奉仕職は古代教会の中で現れてはきましたが、司教総会(1994年)において日本の教会への導入と実施を決定したものです。

以後、7教区で27名の終身助祭が叙階されております。終身助祭の奉仕職は、洗礼の執行、婚姻の立ち合い、ミサ典礼の福音朗読、聖体授与、集会祭儀司式、葬儀などで、司教の協力者、助力者として神と教会の専属者として司教の派遣と任命を受け、信徒の必要にこたえるものです。

私たち高松教区は、この叙階式において、ますます社会の中に歩む教会として力をいいただいたことを感謝した次第です。

諏訪司教談



終身助祭として

私は神学校で、終身助祭のみが7つの秘跡全てを受けることが出来ると思い、この本当の恵みと意味を探求していくつもりです。高校の頃、司祭になる使命を感じましたが、世の中には他にも沢山すべき事がありまして。そして主が私を日本に導いたのです。日本語を学び、ここで生活し始めた後、私はまた主からの使命を感じました。

教会は秘跡を、我々を育てる神よりの恵みと考えます。聖職の秘跡を通じ、我々は教会に奉仕します。我々は教会の貴族ではありません。我々はイエスの使命を受け、仕えるのです。初代教会では、助祭は慈愛の聖職者として指名されてきました。助祭の役割とはキリストの役割として人々に奉仕し、人々を神の光へ導くことです。我々は人々にただ無条件で奉仕するのです。

日本には助祭は多くありません。司祭は皆一度は助祭でした。日本での終身助祭の役割は教会と司教に仕えることですが、答えは歩む中で見つけられます。私はポリースカウトの手助けや国際団体への支援に携わってきました。西讃ブロックや高松教区信徒への援助も行いました。

助祭の恵みをうけて

終身助祭として

教区の皆様と、とくに徳島地区の皆様、本当にありがとうございました。今回の叙階援助も行いました。

助祭は人々と共にある存在であるべきです。叙階式の中で司教さまからの問いかけには儀式書にある通りに答えましたが、いながら、教区民と馴染みつつ、司教と教会あはれ私の本心からの答えです。神さまの忍耐と慈しみに心から感謝すると同時に、司教さまに誠実に仕え、司祭方・助祭方・修道者方にも誠実に仕え、教区の信徒の皆様と心から誠実に仕え、また、同時代を生きていく教区内外に住む人々に神さまとともに生きる喜びと慰めを伝えてゆきます。折があるうとなかろうと、実力以上の大それた願いですが、私はマリア様のご保護を洗礼を受けたその日からずっと受け、これまでも実力以上の仕事をしてきました。一緒に働いてくださった方々に感謝で一杯です。聖母の助けを信頼しきって頑張ります。

これからもどうぞよろしく、お願いいたします。

R・T・ウィリアムス

ありがとうございました。

小山 一



歌って踊って平和を語ろう 阿波踊り in 徳島2019

人生を変える出会いの力 (闇から光へ)

毎年行われている「歌って踊って平和を語ろう」(青少年司牧委員会主催)は今年も徳島教会で行われた。福岡からも青年たちが参加し、阿波踊りに連なり、当地の青年たちとの交流の輪も広がった。今年は「平和旬間の集い」として五十嵐弘志さんをお招きした。テーマは「人生を変える出会いの力」であった。同氏は、刑歴約20年の中、獄中でキリストに出会い、神の光に照らされ人生の真実に目覚めた回心への道を語られた。獄中の老人受刑者の介護を長く担当し、「神の愛の宣教者会」のシスター方との交流の中で、マザーテレサを信仰の母と仰ぎ、愛と祈りの実践を通して出所後、洗礼を受けられた。現在受刑中の人々や刑務所から出所した人々のケアに携わって、NPO法人「マザーハウス」を立ち上げ、文通プロジェクト、刑務所内の人権擁護・受刑者も人間です」に向けての啓発活動、また出所者の生活、就労サポートなど再犯防止に向けての社会意識の変革など多岐にわたる活動を語りつづけている。参加者一同、社会から隔離された特殊な社会への驚きのみならず、神の愛の広がりへの協働や生き方の、また教会の在り方など受け止めた。この度、家族そろっての徳島訪問は、子供たちもいよいよ夏休みの体験であった。夏休みの体験であった。夏休みの体験であった。夏休みの体験であった。



「歌って踊って平和を語ろう」 阿波踊り in 徳島2019」に参加して

今回の集いで私は「何事も当たり前ではないこと、いまがあることに感謝することの大切さ」に気づかせてもらいました。久しぶりの四国、初めての阿波おどりということで、胸を踊らせながら電車まで2回乗り継ぎ、徳島へ向かいました。

さつそくアステイとくしま(産業観光交流センター)で有名連の方々の踊りを見て、阿波踊り in 徳島2019に参加して踊り、また教会に帰って踊り、すっかり阿波おどりに染まっています。夜の町で見た阿波おどりは、時にしなやかで、時に激しく、「見せる」盆踊りだと聞いていましたが、まさしくその通りだと感じました。特に道路の真ん中で見た、古くからの動きを守りつつ、連の個性を生かした踊りはとても素晴らしい、いつまでも見たいと感じました。



福岡教区 有吉 優里



二日目は、受刑中にキリストと出会い、回心された、五十嵐さんのお話を伺いました。生い立ち、刑務所内での話から、出所後立ち上げたNPO法人「マザーハウス」での受刑者及び出所後の人々を支援する活動について、たくさんのお話をしてくださりました。衝撃的な内容と、五十嵐さんの熱意、信仰心の深さが印象的で、あっという間に時間がたってしまった。自分が当事者になるかわからない、何事も、絶対はない、ということはない、ということを感じました。五十嵐さんが非行に走ってしまった



青少年司牧委員会より
9月14、16日に霧の森コテージにて教区青年の集いがありました(左の写真)。
次号に報告を掲載します。

カトリック高松教区 2019年10月1日 (第192号)

2018年度宗教学法人「カトリック高松司教区」会計 資金収支計算書 (2018年4月1日～2019年3月31日)

支出の部	科目	教区本部合計	小教区合計	総合計
経常支出の部				
祭儀費		189,843		189,843
諸委員会活動費		6,055,485		6,055,485
生涯養成委員会		14,316		14,316
広報委員会		522,226		522,226
典礼委員会		94,686		94,686
青少年委員会		438,656		438,656
人権委員会		302,004		302,004
諸宗教委員会		110,000		110,000
エキュメニズム委員会		0		0
女性の会		105,831		105,831
教区支援事業		4,390,718		4,390,718
外国人宣教司牧委員会		77,048		77,048
宣教活動費		1,025,928		1,025,928
助成金支出		5,524,440		5,524,440
小教区助成金		2,924,440		2,924,440
修道会助成金		2,600,000		2,600,000
援助事業費		3,787,148		3,787,148
人件費教区事務局		43,971,968		43,971,968
本俸・諸手当		39,164,770		39,164,770
法定福利費		4,807,198		4,807,198
雑給与		0		0
福利厚生費		97,275		97,275
維持管理費		3,565,522		3,565,522
保守管理費		1,404,985		1,404,985
水道光熱費		1,663,608		1,663,608
什器備品費		14,500		14,500
営繕費		0		0
園芸費		30,909		30,909
損害保険料		451,520		451,520
事務管理費		8,165,691		8,165,691
事務印刷費		458,869		458,869
消耗品費		223,575		223,575
電話FAX料		156,491		156,491
通信費		469,044		469,044
支払手数料		109,581		109,581
旅費交通費		413,510		413,510
公租公課		864,200		864,200
会議費		179,743		179,743
接待交際費		211,590		211,590
報酬手数料		3,850,623		3,850,623
諸会費		8,000		8,000
自動車諸費		670,569		670,569
修繕費		529,896		529,896
賃借料		20,000		20,000
慶弔費		0		0
養成費		1,327,214		1,327,214
教育費		338,596		338,596
運営分担金		490,000		490,000
会議費		0		0
旅費交通費		44,520		44,520
養成援助費		454,098		454,098
宣教司牧費			18,582,415	18,582,415
特定献金支出			11,685,948	11,685,948
世界こども助け合いの日献金			383,997	383,997
聖地献金			15,741	15,741
愛の献金			594,756	594,756
広報の日献金			274,791	274,791
聖ベトロ使徒座献金			268,357	268,357
世界難民移住移動者献金			245,464	245,464
世界宣教の日献金			325,248	325,248
宣教地召命促進の日献金			296,511	296,511
一粒会献金			3,362,885	3,362,885
教区献金			5,918,198	5,918,198
納付金支出			38,863,926	38,863,926
教区納付金支出			35,586,788	35,586,788
修道会等納付金支出			3,277,138	3,277,138
人件費支出			5,529,500	5,529,500
運営管理費			36,747,765	36,747,765
補助活動支出			1,568,933	1,568,933
墓地・納骨堂管理支出			660,800	660,800
雑損失				
経常支出計		73,710,514	113,639,287	187,349,801
財務支出の部				
固定資産支出		35,489,020	25,913,581	61,402,601
建物付属設備購入支出			869,830	869,830
構築物購入支出			4,500,692	4,500,692
祭儀備品購入支出			535,934	535,934
器具備品購入支出		741,420	1,695,818	2,437,238
車両購入支出				
建設仮勘定支出		34,747,600		34,747,600
特別目的預金積立支出			18,311,307	18,311,307
固定負債支出			100,000	100,000
長期借入金返済支出			100,000	100,000
その他の財務支出		55,412,322	7,116,489	62,528,811
立替金支出		6,807,683	1,429,055	8,236,738
仮払金支出		31,194,905	820,737	32,015,642
未払金支出		2,447,805	901,810	3,349,615
仮受金返還支出		8,481,977	2,870,760	11,352,737
預り金支出		6,479,952	1,094,127	7,574,079
内部取引勘定支出		22,387,966		22,387,966
基金勘定支出				
教区事務勘定支出		19,509,940		19,509,940
一粒会勘定支出		2,609,149		2,609,149
墓地納骨堂勘定支出		75,107		75,107
霊性センター勘定支出		193,770		193,770
資金調整勘定		△1,824,000	△1,241,443	△3,065,443
期末未払金		△1,824,000	△1,241,443	△3,065,443
財務支出計		111,465,308	31,888,627	143,353,935
支出計		185,175,822	145,527,914	330,703,736
次期繰越金		554,078,613	119,919,684	673,998,297
支出合計		739,254,435	265,447,598	1,004,702,033

収入の部	科目	教区本部合計	小教区合計	総合計
経常収入の部				
納付金収入		32,680,788		32,680,788
教区納付金(A)		11,691,000		11,691,000
教区納付金(B)		14,935,788		14,935,788
教区納付金(C)		6,054,000		6,054,000
分担金収入		450,000		450,000
小教区分担金収入				
その他分担金収入		450,000		450,000
特定献金収入		10,193,352		10,193,352
世界こども助け合いの日献金		1,497,626		1,497,626
聖地献金		15,741		15,741
愛の献金		604,756		604,756
広報の日献金		319,791		319,791
聖ベトロ使徒座献金		313,357		313,357
世界難民移住移動者献金		290,464		290,464
世界宣教の日献金		370,248		370,248
宣教地召命促進の日献金		331,511		331,511
教区献金 (注1)		6,449,858		6,449,858
一粒会献金収入		3,682,885		3,682,885
信徒通常献金収入			67,553,579	67,553,579
教会維持献金			48,149,319	48,149,319
ミサ聖祭献金			16,411,135	16,411,135
大祝日献金			2,993,125	2,993,125
特定献金収入			11,685,948	11,685,948
世界こども助け合いの日献金			383,997	383,997
聖地献金			15,741	15,741
愛の献金			594,756	594,756
広報の日献金			274,791	274,791
聖ベトロ使徒座献金			268,357	268,357
世界難民移住移動者献金			245,464	245,464
世界宣教の日献金			325,248	325,248
宣教地召命促進の日献金			296,511	296,511
一粒会献金			3,362,885	3,362,885
教区献金			5,918,198	5,918,198
特別献金収入		32,818,507	42,818,717	75,637,224
祭式献金		2,893,101	12,831,824	15,724,925
特別献金		2,929,880		2,929,880
一般特別献金 (注2)		26,107,145	11,403,433	37,510,578
一般献金		888,381		888,381
営繕献金			6,557,175	6,557,175
建設献金			11,743,185	11,743,185
特別事業献金			23,100	23,100
共同司牧収入			260,000	260,000
助成金収入			2,924,440	2,924,440
教区助成金収入			2,924,440	2,924,440
墓地・納骨堂収入		2,859,000	3,730,000	6,589,000
非課税永代使用料収入			200,000	200,000
課税永代使用料収入		1,350,000	2,570,000	3,920,000
管理料収入		1,509,000	880,000	2,389,000
その他納骨堂等収入			80,000	80,000
補助活動収入			2,501,384	2,501,384
行事収入			808,387	808,387
課税事業収入			944,479	944,479
非課税事業収入			748,518	748,518
雑収入		611,127	94,550	705,677
課税雑収入		103,174	3,550	106,724
非課税雑収入		507,953	91,000	598,953
事業収入		1,211,659	6,555,901	7,767,560
受取利息配当金		15,001	103,901	118,902
施設利用料収入		1,196,658	490,000	1,686,658
駐車場収入			5,962,000	5,962,000
経常収入計		84,507,318	137,864,519	222,371,837
財務収入の部				
固定資産収入		3,601,312	15,319,407	18,920,719
基本土地売却収入		3,500,000		3,500,000
基本建物売却収入				
車両売却収入			1,312	1,312
長期貸付金回収収入		100,000		100,000
特別目的預金取崩収入			15,319,407	15,319,407
その他の財務収入		52,556,526	7,839,988	60,396,514
未収入金収入		857,248		857,248
立替金回収収入		7,283,759	1,399,055	8,682,814
仮払金回収収入		29,577,599	813,439	30,391,038
預り金収入		6,366,653	1,139,428	7,506,081
仮受金収入		8,471,267	4,488,066	12,959,333
内部取引勘定収入		22,387,966		22,387,966
基金勘定収入		16,684,514		16,684,514
教区事務勘定収入		2,878,026		2,878,026
一粒会勘定収入		2,556,549		2,556,549
墓地納骨堂勘定収入		75,107		75,107
霊性センター勘定収入		193,770		193,770
資金調整勘定		△1,281,443		△1,281,443
期末未収入金		△1,281,443		△1,281,443
財務収入計		77,264,361	23,159,395	100,423,756
収入計		161,771,679	161,023,914	322,795,593
前期繰越金		577,482,756	104,423,684	681,906,440
収入合計		739,254,435	265,447,598	1,004,702,033

(注1) 2018年度の教区献金は皆様の寛大なご協力で6,449,858円の献金を頂きました。ここに厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。
教区内での教区献金は2018年度で終了しましたが、2019年度からは新しい納付金制度が始まります。引き続きご協力のほどをよろしく申し上げます。

(注2) 一般特別献金には、西日本豪雨災害援助金の646万円が含まれています。皆様の温かいご援助に感謝申し上げます。ありがとうございました。

教区スケジュール

- 9月 1日(日)年間第22主日 被造物を大切に... 2日(月)岩永千一師命日(6周忌)(2014年9月2日) 8日(日)年間第23主日 聖マリアの誕生 10日(火)10:00司祭評議会 日本205福者殉教者 14日(土)十字架称賛 15日(日)年間第24主日 悲しみの聖母記念日 16日(月)敬老の日 21日(土)13:00宣教司牧評議会役員会 聖マタイ使徒福音記者 22日(日)年間第25主日 23日(月)秋分の日 24日(火)深堀敏司教命日 28日(土)トマス西と15殉教者 29日(日)年間第26主日 ミカエル ガブリエル ラファエル大天使 世界難民移住移動者の日
10月 福音宣教のための特別月間 6日(日)年間第27主日 13日(日)年間第28主日 14日(月)体育の日 18日(金)聖ルカ福音記者 20日(日)教区民の集い 年間第29主日 世界宣教の日 27日(日)年間第30主日

徳島地区殉教者祭

徳島地区殉教者祭に参加して

7月7日(日)阿南教会にて殉教者祭があり、デイオゴ結城了雪神父のお話をブライザー八木から、阿波藩に送られた浦上四番崩れのお話を野田氏から聞きました。デイオゴ結城了雪神父の生涯や足跡の要約について、また彼が誕生する前から離れませんが、その神父さんの姿がイエスキリストの生涯そのものです。捕まえられたときには、自ら逃げようと思わず、苦しい拷問にあったことは、イエスキリストの受難によく似ていると思います。その穴吊りの拷問は、亡くなるまで約二日間かかったと言われています。その間、彼は何を考えていたのでしょうか。たぶん私はイエスキリストのことを考え、またはマリア様に口ザリオの祈りなどを捧げ

阿南教会 本村 敬

私の母の実家が結城家の館に近い所にあり、小さい時から知っていました。約二年前に洗礼を受け、カトリックに対してまだまだわからない事がたくさんありますが、今回のお話しで結城了雪神父の



「出会いと居場所」

ダルク(DARC)とは、Drug(薬物)Addiction(病的依存)Rehabilitation(回復)Center(施設)の頭文字を取った造語で、1985年に日本で初めて創られた民間の薬物依存症のリハビリ施設のことです。創設から30年以上経った今、日本全国に約90箇所のダルクが存在しています。香川ダルクは平成23年12月に、香川ダルク女性ハウスは平成27年7月にそれぞれ設立され、「依存症」という病気に苦しむ当事者を受け入れ、リハビリプログラムの提供と共同生活による生活訓練を通して回復の手助けを行ってきました。

現在、薬物依存症だけではなく、アルコール依存症、ギャンブル依存症、クレプトマニア(万引きが止まらない病気、摂食障害や自傷行為、ゲーム・インターネット依存症など、様々な依存症と生き辛さを抱えた仲間が20名以上も集い、「今日一日」を合言葉に回復のプログラムに取り組んでいます。今から約8年前、香川ダルクが設立されてから、これまでの歩みを振り返ると、地域の

令和元年 高山右近祭

令和になり初めての高山右近祭が7月7日小豆島教会で行われました。今年は教区の他の行事と重なり、参加者は51名と去年に比べて随分少人数でした。当日の天気予報も85%の雨で心配でしたが、13時30分からの諏訪

司教様の御ミサの後恒例の小山島名物ソーメンのお接待も島外の信者はじめ皆さんに、とても喜んで頂きました。その後、皆さんを土庄港までお送りして、会場の後かたづけが終わった頃に、雨が降って来ましたが、あく良かつたこれも皆様のお恵みを頂きましたね!と小豆島教会の信者一同で感謝しております。

小豆島教会 砂場 哲



皆様、そしてカトリック高松教区の皆様を支えられてこの活動であったと思います。カトリック高松教区には、私たちの回復の重要な柱である「ミーティング」の会場として教会の会議室を使用させて頂き、そして平成28年12月1日より、東かがわ市にある霊性センターのA棟を香川ダルク女性ハウス(マリアンハウス)としてお貸しいただいています。また、民間団体であり活動資金の乏しい私たちに、カリスティアン様は資金援助をしてくださいました。

ベトナムの若者の集い in 坂出

香川ダルク 代表 村上亨 香川ダルク 女性ハウス 代表 榎田さゆり

8月25日(日)カトリック坂出教会でベトナムの方々の集まりが行われました。ドミニコ会ベトロ神父様の「指導の下、130人を超えるベトナム人の若者が集まって下さいました。5年前前から、ベトロ神父様がこの坂出教会周辺のベトナム人の青年達の司牧の一助になればと始めて来られたそうです。次第に口コミで広まり、年に一度各地域からベトナム人の若者が集まり、共に祈り、食べ、交わっています。坂出教会のベトナム人のリーダー

「ご支援の賜物であると感謝しています。これからも、香川ダルク、香川ダルク女性ハウスは「ありのままを認め合いながら、共に生きる居場所を、地域に根ざすこと」を理念に、活動を続けていきます。どうか、これからも私たちの活動を見守ってください。」

集いの風景



一皆さん、日本の教会を元気づけて下さり、ありがとうございます。このお伝えしました。高山 徹

司教座聖堂(桜町教会)の聖母レリーフが移転しました

1957年(昭和32年)12月、番町教会より独立した桜町教会はハス畑の沼地跡に現在の聖堂が建てられました。初代主任司祭田中英吉師を迎え、昭和38年に高松司教区が発足し、新司教誕生とともに司教座聖堂(カテドラル)となりました。このレリーフを創作して下さった安部政義さん(ご子息である重竹氏の多大なご尽力によるものです。改築された聖堂との一体感とより豊かな荘厳さを加えた印象があります。聖母幼稚園の保護者の方々や子供たちにとって、またそれにもまして、



編集後記

読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋...夏の猛暑を過ぎた後の秋晴れの下、色々な活動へと私たちの心は向かいます。10月は教区民の集いが予定されておりありますが、集うみんなの心が生き生きとする時となればと思います。教皇様の訪日も11月に控えております。マリア様の取り次ぎを願ひ、このロザリオの月の間、心を込めて祈りを捧げて参りたいと思っております。

